

第3節 気候

本市の気候は一年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない。海に面するため寒暖差も少なく、北海道としては比較的温暖な気候である。

1981年～2010年の平年値では、年平均6.5、年平均降水量は787.6mmである。

資料編 ・ [資料2-1]市の気象概況

第2章 災害の概況

本市の自然災害及び事故災害の概況は、次のとおりである。

第1節 四季別の災害の概況

本市の災害の発生は暴風雨（低気圧・台風）による風水害が最も多く、以下火災、冷害、雪害等がその主なものである。

1 春の災害

4月末からは強風やフェーン現象による高温・空気の乾燥等によって、畑作地帯の強風害や野火の発生が多くなる。5月下旬からはオホーツク海に冷たい高気圧が停滞し、肌寒い曇りや霧雨等の天気が続くことがある。また、高気圧に覆われた日の朝は、霜が降りやすく、6月に入ってから遅霜により農作物に被害が出ることもある。

2 夏の災害

オホーツク海の冷たい高気圧が8月になっても現れて、低温が続く年もある。また、この時期は雷が発生し局地的に強い雨が降ることも多く、路肩崩壊等の道路被害やがけ崩れによる被害が発生することがある。

3 秋の災害

初秋の天気は変わりやすく、時には台風の接近や前線の活動が活発となって暴風や大雨となることがある。近年では、住家の浸水や、農業・水産被害、倒木、停電等の大きな被害が発生している。9月の降水量は一年のうちで最も多くなっている。

4 冬の災害

12月に入ると西高東低の冬型の気圧配置となる日が増えて、近年では平成16年1月、猛烈に発達した低気圧による暴風雪（網走の最大瞬間風速32.8m/s）により記録的な大雪、海上は大しけとなり、この影響で交通障害が発生したほか、網走港、農・漁業関係の被害や、市内各所において停電・通信障害等の被害が報告されている。

第2節 過去の災害履歴

本市における過去の災害履歴については、資料編の経年履歴に示すとおりである。

資料編 ・ [資料2-2]過去の災害の記録

第3章 網走市河川はん濫浸水の想定

市は、網走川が大雨によって増水し、堤防が決壊した場合の浸水想定結果に基づいて、浸水する範囲とその程度並びに浸水実績を示した地図を作成し、市民の生命及び財産を守る。

また、避難所を設定する基盤とする。

網走川浸水想定図

(平成21年7月現在)

